

第677回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2025年10月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

アサデス。KBC終戦80年特別番組

「そのとき戦争が生活の中にあった」

(放送日時：8月16日(土)12:55~15:00)

◇ その他

KBC テレビ 2025年上期の番組種別の公表報告

2025年10月20日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第677回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年10月20日(月) 15時30分～17時05分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	山根 久資
副委員長	森 慎二
委員	副田 智幸
委員	サーズ 恵美子
委員	小柳 美佳
委員	泗水 康信
委員	林田 真心子
委員	松瀬 萌々香

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君夫
取締役 報道制作局長	大迫 順平
執行役員 総合編成局長	柴田 高宏
広報室長	原 由美子
報道情報局 報道情報センター部長代理 (番組総合プロデューサー)	吉住 啓一
報道情報局 報道情報センター (番組制作プロデューサー)	石井 秀樹
総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤 礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永 俊郎

4. 議題

(1) テレビ番組

アサデス。KBC終戦80年特別番組「そのとき戦争が生活の中にあった」

(放送日時：8月16日(土)12:55～15:00)

(2) KBCテレビ 2025年度上期の番組種別の公表報告

(3) 10月・11月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(4) 9月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(5) その他

5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 戦後80年の節目にあたり、今年は戦争の悲惨さを伝える番組が多かったが、本作も過去の記憶を風化させないために意義深かった。
- 「戦争や平和」をテーマにする時に、視聴者に自分事として捉えてもらうのは容易でないはず。普段の生活に戦争がどう影響したのかというアプローチはすばらしい視点だった。
- 「アサデス。」の出演者たちが、戦争を多面的に取材し、取り上げたことで、多くの視聴者に戦争の悲惨さや怖さを実感として与えていた。
- 地域に根差した具体的なエピソードが福岡・佐賀で生活するどの世代にも戦争を自分事として捉える構成になっていた。地域メディアとしての責任の表れだと感じた。
- 戦争を生活面などミクロな視点から伝えることで、幅広い世代に刺さった。遠い誰かの話ではなく、戦争を経験していない世代でも感想を抱きやすい内容だった。
- 猛獣が殺処分されたことは知っていたが、それで敵国への憎しみを募り、戦意を高揚させていたことは知らなかった。自分の視野や想像力の狭さに気づかされた。
- 気象報道管制のエピソードは、残された記録を出演者が一緒に探すことで、文字は何も語らなくとも、視聴者に何かを感じ取らせる効果があった。テレビならではの演出だった。
- 戦争体験者や研究者など多岐にわたる人たちへの取材が理解を深めた。
- 「8月ジャーナリズム」という言葉を知った。節目の年だけでなく、継続的に伝え続けていくことに大きな意味があると思った。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 5つのテーマからなる構成に少し散文的な印象を受けた。少しテーマを絞り、深く考えてもらう構成にしても良かったのではないか。
- なぜ「動物」「スポーツ」「天気予報」「娯楽」「学校」がテーマに選ばれたのか疑問に感じた。

- 気象報道管制のエピソードで、当時を知る女性が登場したが、どこで何を経験した方なのか少し分かりづらかった。
- 分かりやすさも大事な反面、当時の記憶が遠のく中で、どのようにして適切な言葉を選んだのか気になった。
- 番組の導入部分がコロナ禍になっていたが、人為的に引き起こされた戦禍とは意味合いが異なるのではないか。
- どうやって戦争を賞賛する世論が作り出され、戦争に反対する言論が封じ込められたのかなど、もう一步掘り下げて取材してほしかった。
- まとめの時間が短い印象を受けた。専門や年代が異なる出演者が複数いたのだから、最後は出演者全員のコメントでまともでも良かったかもしれない。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 「アサデス。」はエリアで高い支持を得ており、視聴者の生活に根付いている。そんな番組だからこそ、戦争や平和についてより説得力を持ち伝えられると思い本作を制作した。
- 「アサデス。」は日ごろから生活者目線を大事にしている。そのスタンスを崩さず、番組の各コーナーとコラボすることにより、視聴者がより話題に入りやすいように構成した。
- テーマ選定は、レギュラー番組「アサデス。」の延長で、戦争という重たいテーマを戸惑わずに見ていただく、レギュラーコーナーと連動感があるテーマを設定した。
- 気象報道管制のエピソードではあったが、当時を知る女性たちは気象情報どころではない時代を生きておられた。個々人の紹介よりもお話の内容を重視し、詳細な紹介を控えた。
- 言葉選びや表現については、どういう表現であれば今の子どもたちにも伝わるか悩みながら考えたが、専門家の監修を得るなどした。
- コロナ禍と戦禍を同等に論じていいものかというご批判は理解している。ただ、どのようにして視聴者に自分事として捉えてもらうか考えた末にコロナ禍と戦禍を絡めた。
- 戦争を知らない世代には間口を広くしなければ関心を持ってもらえない。無関心の方が危険だと考え、本作はより関心をもってもらえるように生活に特化した視点で制作した。
- 収録時は、出演者の全員がたくさんの感想を述べたが、2時間の番組内では時間の調整が難しく、優先順位が高い各企画のVTRに時間を割くことになった。
- 終戦から80年経ち、戦争を取上げにくくなっているところにもどかしさはあるが、現実的に伝わるタイミングで伝えたいという意味で、本作も「終戦の日」の翌日に放送した。
- 今年は年明けから「戦後80年」に関連する特集を多数展開した。「戦争や平和」を題材にした過去のドキュメンタリーもYouTube配信するなどしたが、今後も取り上げていくべき重要なテーマだと考えている。

などの説明をしました。